



HARMONY

今号は病院長に、新年度に病院が推進していく事業について寄稿いただきました

新年度に病院が推進していく事業について

令和5年度を迎えました。本年5月に2020年2月から続いた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染症法上の位置付けが2類相当から5類へ変更されます。国がオミクロン株による流行は季節性インフルエンザ流行と同等リスクであると判断しました。しかし高齢者や基礎疾患を有する方は罹患後の重症化リスクが高く、また強い感染力があり病棟内クラスター発生の懸念があります。医療機関では慎重な対応が求められますので、コアメンバーミーティングにて流行状況に合わせた新しいCOVID-19管理体制を組み立てます。本院の使命を果たすためにご尽力頂いている職員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

続いて本院が展開する医療の質向上に向け取り組んでいる新しい事業を紹介します。

1.センター化医療の推進:脳卒中・心臓病等総合支援センター(厚労省モデル事業)を開設しました。本センターにて、県内における脳卒中・心臓病等の診療に加え脳卒中・循環器病患者・家族への相談支援及び地域の医療機関との連携、疾患に関する情報提供等、地域全体のシームレスな患者支援体制を強化します。さらに末梢神経障害や下肢動脈硬化・血流障害により発生する足潰瘍、壊疽の治癒向上を目指す下肢救済・創傷治療センターや慢性疼痛患者の痛み制御の医科歯科連携診療・支援体制を充実した痛みセンターを開設しています。県民の皆様がこれらのセンターを広くご利用いただけるよう情報発信に努めます。

2.先端医療の開発・推進:臨床遺伝診療部を体制強化しゲノム医療センターを開設しました。この背景には、遺伝カウンセリング数の増加、その結果の遺伝関連検査の増加、難病(遺伝子異常)治療薬の保険収載数増加があります。1.各診療科におけるゲノム医療の標準化と診断・研究支援、2.県内におけるゲノム医療の実装化、3.本医療への県民アクセス促進のための広報力を高めます。総合臨床研究センターでは、従来の治験・臨床推進部門に加え新たに社会実装推進部門を開設しました。本学研究支援・産官学連携センターと連携し本院の研究シーズの探索と開発を進め、研究支援人材の育成にも注力します。

3.働き方改革:2024年4月に働き方改革の改正医療法が施行されます。大学病院は研修医、専攻医、医員、助教以上の職位の教員といった多様な医師が働く現場です。医師各々が自らの労働規制のタイプを認識し、各部署の長、管理者と共に働き方を改善し向上していかなければなりません。チーム医療(タスクシフト・シェア)を基本として勤怠管理システムの導入、超過労働時間の時短計画書作成や勤務時間インターバルと代償休息の確保体制、面接指導医師の育成を進めます。単に労働時間を短縮するだけではなく働きがいのある職場と環境を整備していきます。ICTによる診療業務時間の短縮、病院情報の共有、医療機器の管理などの医療DXを進めます。

病院ステークホルダー(学生、職員、住民、行政等)とのコミュニケーション力を高め、本院の強み-がん、手術(ロボット支援手術)、難病・高度な救命集学的医療、高品質の教育・研究力-を生かし、患者紹介の増加や若手医療人の獲得のみならず社会の健康を守り支える医療的・社会的価値の高い病院として発展するよう職員一丸となり取り組みます。



徳島大学病院長
香美 祥二

病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

総合アレルギーセンターについて

総合アレルギーセンターは、アレルギー疾患の重症化の予防及び症状の軽減、アレルギー疾患医療の均てん化の促進、アレルギー疾患を有する者の生活の質の維持向上等を目的としたアレルギー疾患対策基本法に基づき、徳島大学病院が平成31年1月に徳島県アレルギー疾患医療拠点病院に指定されたことを受け、県民に対し適切なアレルギー疾患医療を提供できる体制を整備することを目的として、令和2年4月より設置されました。

センター員はアレルギー疾患診療に関わる呼吸器・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科、かみあわせ補綴科、そしゃく科、看護部、治療薬に関係する薬剤部、食事療法に関わる栄養部、患者支援センターから構成され、アレルギー疾患に関する診療、人材育成、情報提供を実施することにより、徳島県のアレルギー疾患医療全体の質の向上に取り組んでいます。

本センターは人材育成に注力しており、アレルギー専門医や小児アレルギーエデュケーター(PAE)、アレルギー療養指導士などの資格取得のためのサポートを積極的に行っています。その結果、今年度は西病棟3階の加藤真理子さんがPAE資格を取得されました。またアレルギー診療に従事している関係者の院内での連携を深め、情報共有を図る目的に院内連携カンファレンスを開催し、専門家であるセンターのメンバーだけに留まらず、院内の医療従事者に公開し、病院全体として診療レベルの向上にも努めています。

情報提供では徳島県と共催でアレルギー疾患医療に携わる医療従事者を対象としたアレルギー疾患対策研修会と、患者やその家族、地域住民に適切な情報を提供するアレルギー疾患県民公開講座を行っています。今年度は令和5年2月4日(土)に、文化の森の徳島県立二十世紀館イベントホールにて、「知ってみよう！身近なアレルギーのこと」を開催しました(写真)。本センターの運営に対し、今後も皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



総合アレルギーセンター センター長 北村嘉章

写真 県民公開講座

令和5年度病院執行部の新役員についてご紹介します

副病院長(総務担当) 放射線科長 原田 雅史



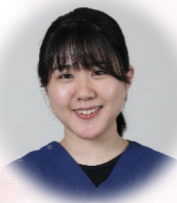
昨年度の診療担当の副病院長から今年度より総務担当の副病院長と変更になりました。原田雅史でございます。これまでも診療担当として患者さんを中心とした病院運営を心がけてまいりましたが、この度は直接患者支援センターの担当責任者ともなりますので、一層患者さんの立場に立った配慮に重きを置いた病院運営を心がけていきたいと考えています。病院に対する改善点等ありましたら、気軽に直接私宛てに、あるいは周りの病院スタッフにお伝えいただき、私まで届けていただければ幸いに存じます。病院内で働く医療従事者全員の能力を最大限に引き出せるように、病院内容の整備に努めていく所存ですので、皆様のご協力を頂戴できれば幸いに存じます。よろしくお願い申し上げます。

副病院長(診療担当) 整形外科長 西良 浩一



病院副院長(診療担当)に就任しました。昨年度は病院長補佐として、主に患者さんの満足度向上、特に待ち時間短縮に取り組みました。副院長に就任後も引き続き、待ち時間ゼロを目指し、患者さんの満足度の高い病院を目指します。また、徳島大学は県内の地域医療の最後の砦という重要な役割があります。さらに、日本全国から高度医療を求めて受診する施設です。地域に根差し全日本国民へ高度医療を提供する、日本のメイヨクリニックを実現したいと思っています。

新人の職員についてご紹介します



救急集中治療部
医員 板東 夏生

令和4年4月に救急集中治療部に入局いたしました、板東夏生と申します。徳島大学を卒業後、徳島大学病院で初期臨床研修を行い、現在に至ります。

特定機能病院である徳島大学病院の救急集中治療部では、内科系・外科系を問わず、小児から高齢者まで、幅広い重症患者が入院してきます。人工呼吸器管理や急性血液浄化、ECMO管理など、最先端の集中治療を経験でき、とても大変ですが、やりがいを感じています。毎日、自分の未熟さを痛感することばかりですが、集中治療部の先輩スタッフの皆様にご指導頂き、充実した研修を行えています。この場をお借りして感謝申し上げます。

休日は、新しい趣味を見つけようと最近はパン作りに挑戦しています。なかなか思うように膨らまず悪戦苦闘しており、初心者に易しいレシピを教えてくださいたいくらいです。

まだまだ至らない点も多いかと思いますが、1日でも早く立派な救急集中治療医になれるよう精進してまいります。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。



矯正歯科
助教 松木 佑太

令和4年4月より矯正歯科助教に赴任しました松木佑太と申します。新規採用職員として挨拶させて頂いておりますが、平成30年4月より徳島大学矯正歯科医局に入局し診療に携わせていただいております。

出身も徳島大学で大学時代はソフトテニス部に所属していましたが、就職後はほとんどテニスができません。運動不足が続いているので健康のためにもテニスを再開できたらと思っています。

日々の診療でも至らないところがたくさんあるかと存じますが、何卒宜しくお願い致します。



検査部
主任臨床検査技師
藤田 望

令和4年4月より免疫血清検査室の主任臨床検査技師として配属されました藤田望と申します。徳島大学医療技術短期大学部を卒業後、県内の厚生連施設等での勤務を経て、臨地実習でお世話になりました徳大検査部へ入職いたしました。

前職では肝炎医療コーディネーターとして受検・受診・受療とつながる医療を目指し、専門医療機関や徳島大学病院肝炎患相談室等との施設間連携の体制構築に努めてまいりました。その経験を活かし、現在、院内でのHBV再活性化に関するWGIにも参加させていただいております。

入職直後より対応してまいりました免疫血清検査室の機器更新も無事に終わり、ほっとしているところではありますが、引き続き大学病院の職員として臨床に貢献できるように自己研鑽に励みたいと考えております。今後ともご指導くださいますようお願いいたします。



視能訓練部
視能訓練士 北野 優希

令和4年4月より医療技術部に視能訓練士として入職しました、北野優希と申します。

視能訓練士は、眼科領域の検査を専門的に行う仕事です。主な業務は視力、眼圧、視野検査などの視機能検査や、弱視、斜視などの訓練、ロービジョンケア（目の疾患や先天異常により視機能が低下し、日常生活で不自由を感じている患者さんへの補助具選定やリハビリ指導を行うこと）です。また、集団検診での視機能スクリーニングにも携わります。

これからの目標は、目の前の患者さんに寄り添うことができる視能訓練士になることです。そのために素早く正確に検査できるよう手技を磨き、患者さんにとってわかりやすい検査説明や安心して検査に臨めるような声掛け頑張りたいと思っています。

至らない点の多い私ですが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



西病棟3階
看護師 前川 優結

令和4年4月より小児医療センターに配属となりました、前川優結と申します。母親が看護師であり、私にとって看護師は身近な職業でした。中学校の職業体験で病院へ行き、患者様に足浴をさせていただいたときに、「ありがとう」と笑顔で言ってくださったことがすごく嬉しくやりがいを感じ、看護師を目指すようになりました。小児医療センターでは、新生児から思春期まで幅広い年齢の児が対象となるため、それぞれの発達段階に応じた看護を提供し、充実した入院生活を送れるよう心がけています。毎日忙しく大変ではありますが、子どもたちに癒され、元気をもらいながら働いています。休日は家族や友人と外食したり、ショッピングやドライブに行ったりしてリフレッシュしています。まだまだ未熟ではありますが、愛と知と技のバランスのとれた看護師を目指して努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。